

# 2019年度全国保育士養成セミナー

2019年8月30日

## 中央研究報告

- テーマ 「保育士試験合格者の就職状況等に関する調査研究」等について
- 報告者 齊藤 多江子（保育士養成研究所副所長 / 日本体育大学准教授）

## 中央情勢報告

- 内容
  - 1 保育士養成研究所の体制について
  - 2 保育士養成の諸課題と研究所の事業内容
  - 3 研究所の研究及び研究助成等について
  - 4 研究所が行う研修について
  - 5 研究所による情報提供等についておわりに
- 報告者 矢藤 誠慈郎（全国保育士養成協議会常務理事 / 岡崎女子大学教授）

# 中央研究報告

保育士養成研究所副所長・日本体育大学

齊藤 多江子

平成30年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業

# 保育士試験合格者の就職状況等に関する調査研究

---

保育士養成研究所副所長・日本体育大学

齊藤 多江子

# 調査目的

---

保育士の確保および定着のための方策のあり方について明らかにすること

- ・保育士試験合格者の実態把握
- ・保育士（試験・養成校）の保育所等への就業に至るまでのプロセスと意識
- ・自治体における保育士確保施策の現状

# 保育士試験合格者の実態

# 研究方法

---

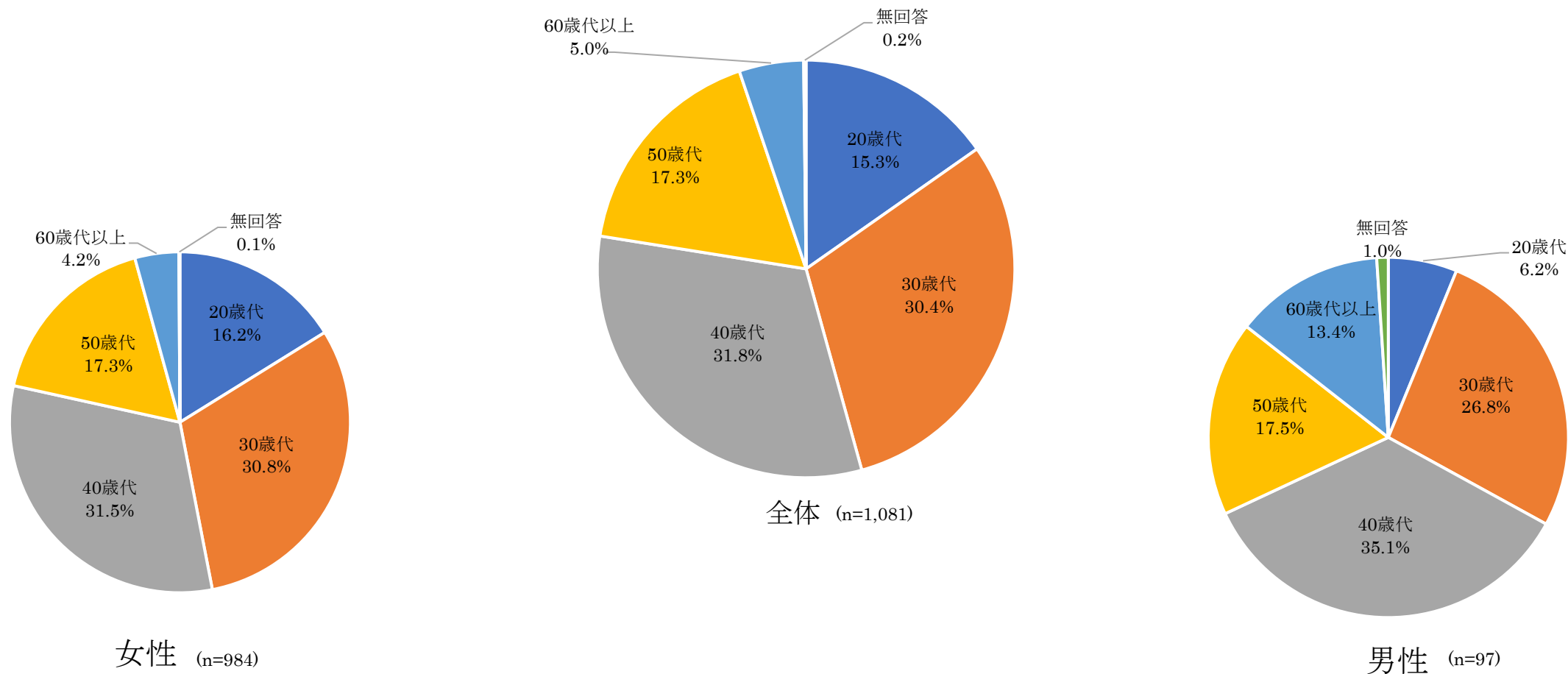
## 1. 調査対象

平成30年度保育士試験実技試験（後期）合格者4,384名のうち、1,081名から回答を得た。回収率24.7%

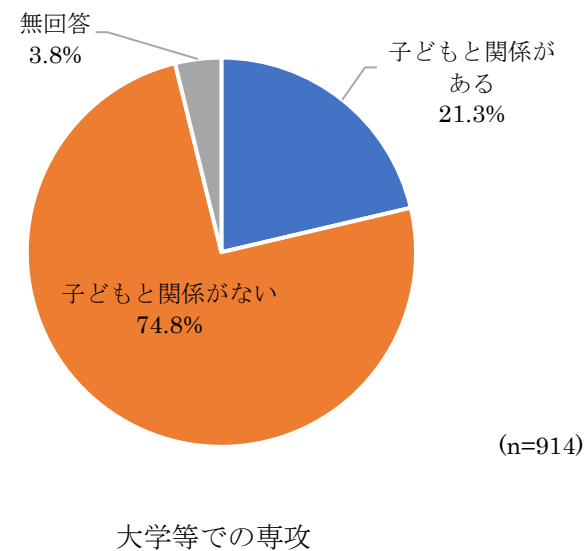
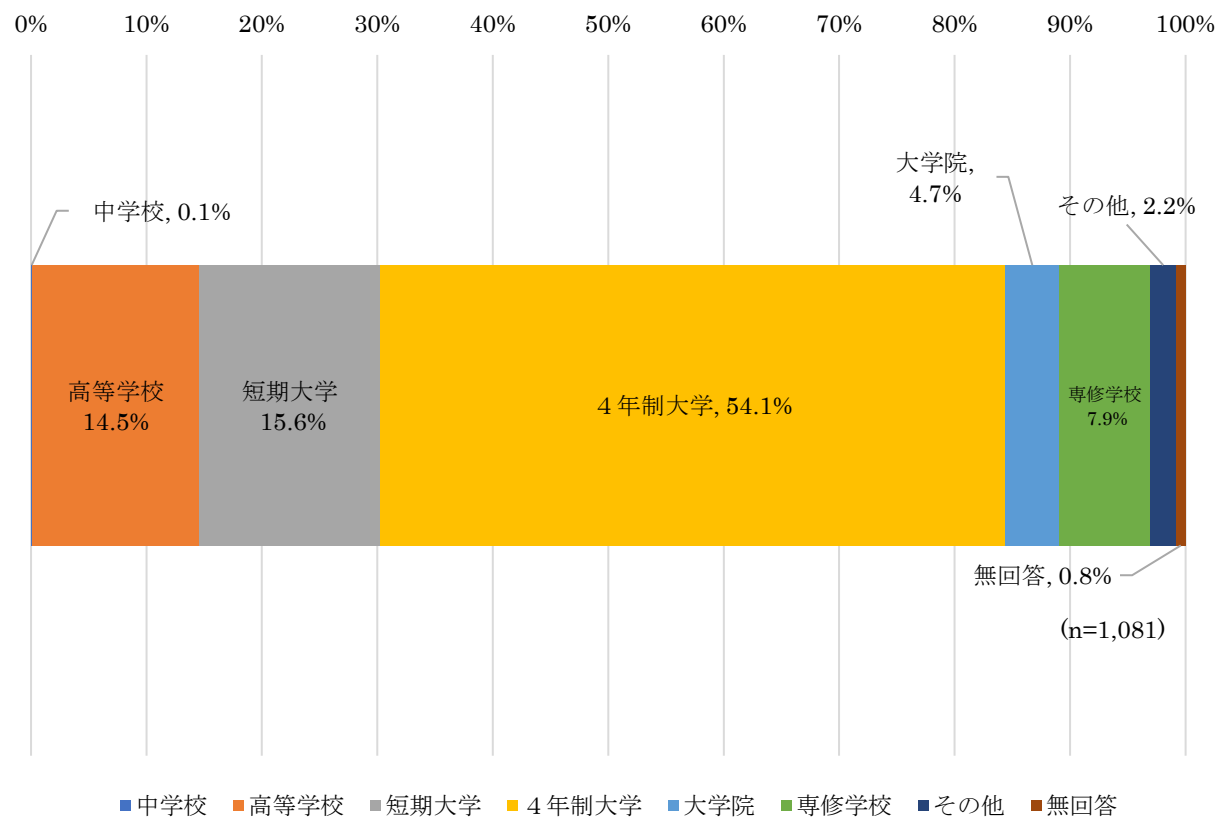
## 2. 調査方法と手続き

保育士試験実技試験（平成30年12月9日）会場において、質問紙調査票を受験者全員に配付し、実技試験の合格通知を受け取った者のみ、質問紙に回答し、返信用封筒にて返送するよう説明。

# 性別・年齢

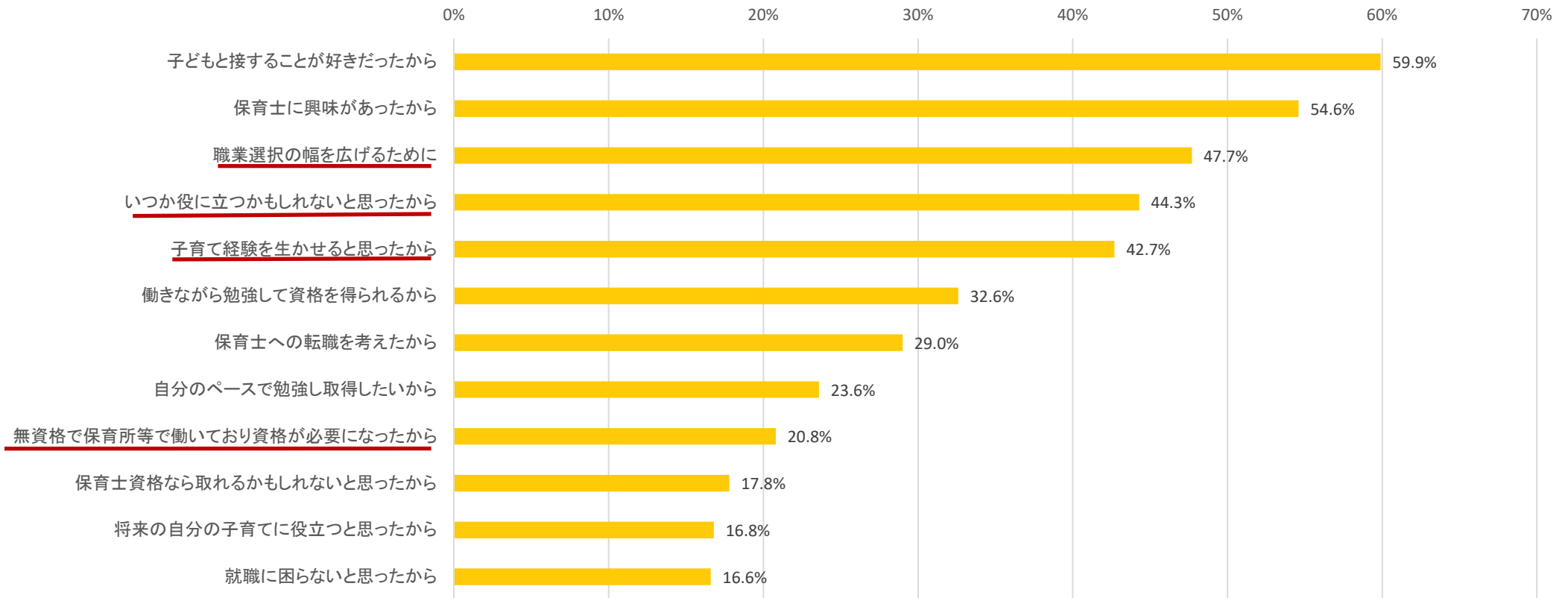


# 最終学歴・専攻





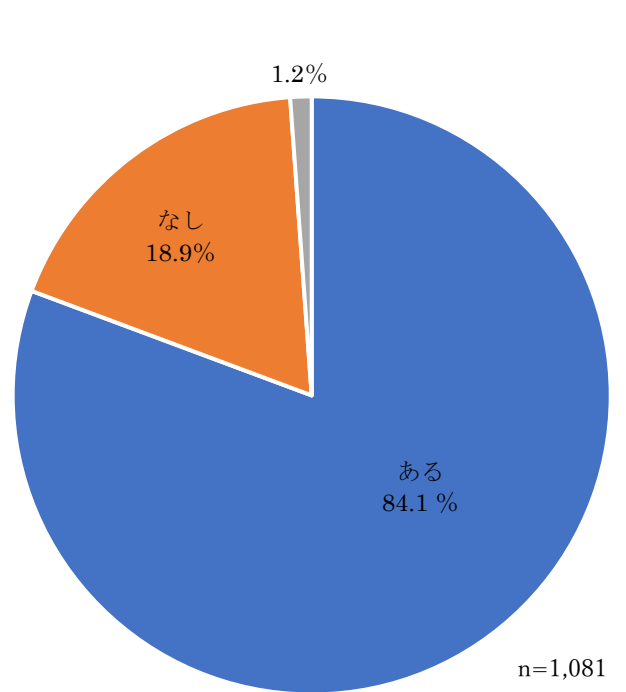
# 保育士試験を受験した動機



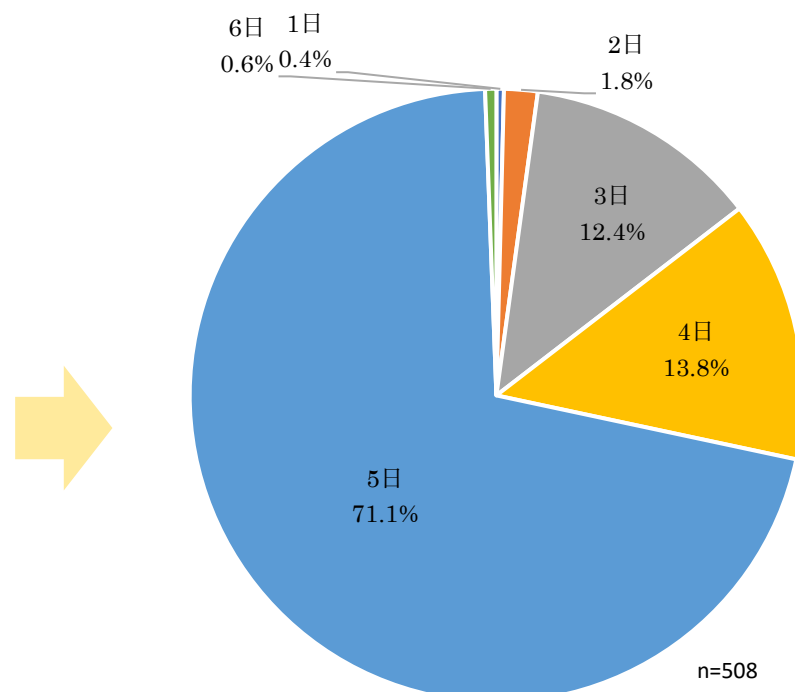
\* 複数回答可

(n=1081)

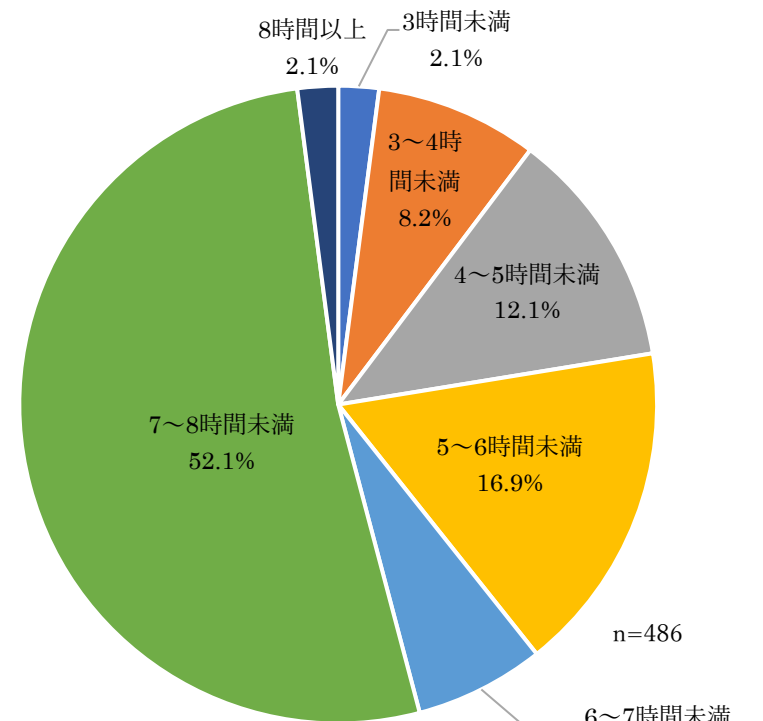
# 保育士として就業する意思及び希望勤務日数・時間



■ 働く意思がある ■ 働く意思はない ■ 無回答



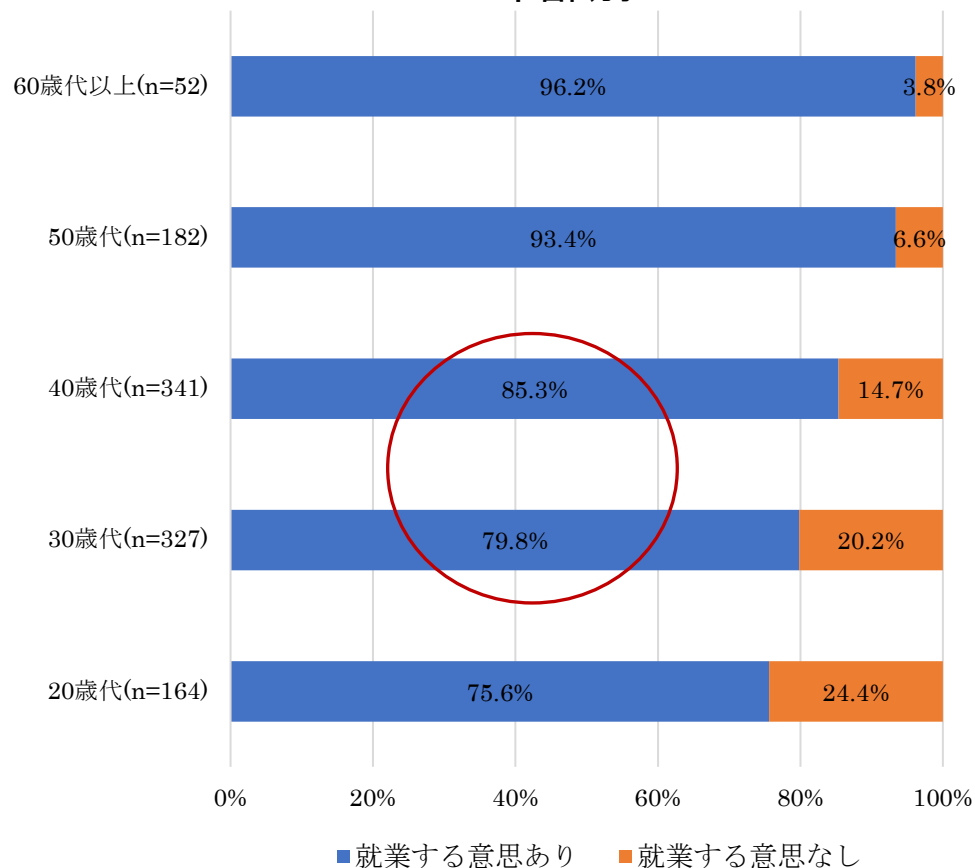
■ 1日 ■ 2日 ■ 3日  
■ 4日 ■ 5日 ■ 6日



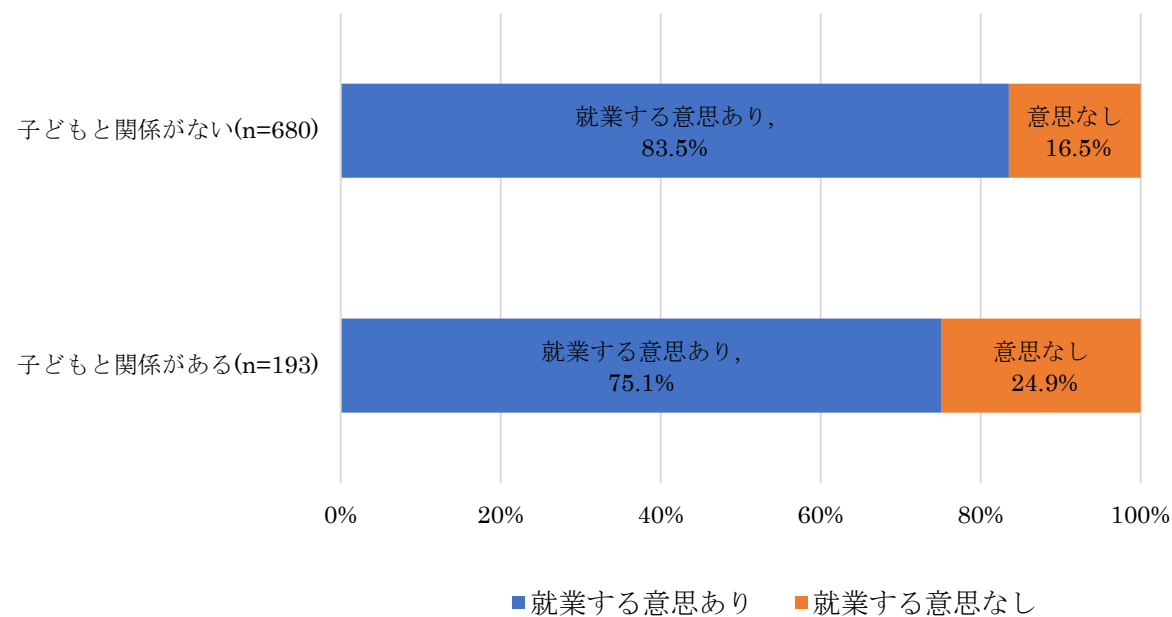
■ 3時間未満 ■ 3~4時間未満 ■ 4~5時間未満  
■ 5~6時間未満 ■ 6~7時間未満 ■ 7~8時間未満  
■ 8時間以上

# 保育士として就業する意思（年齢・専攻による比較）

## 年齢別

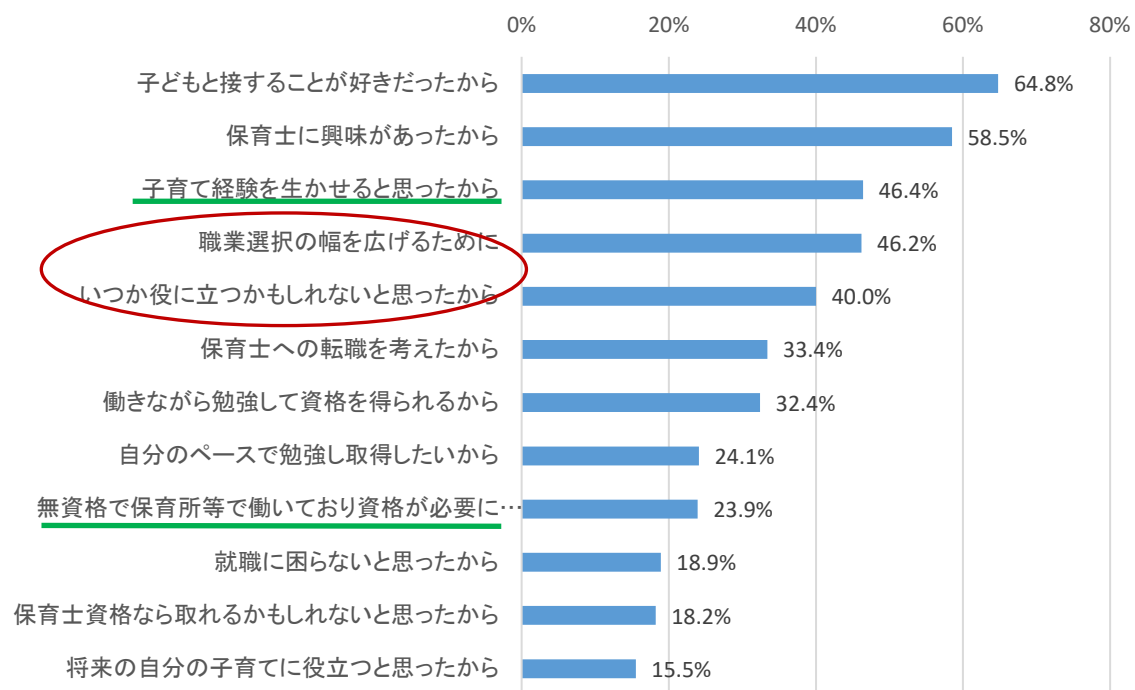


## 専攻別

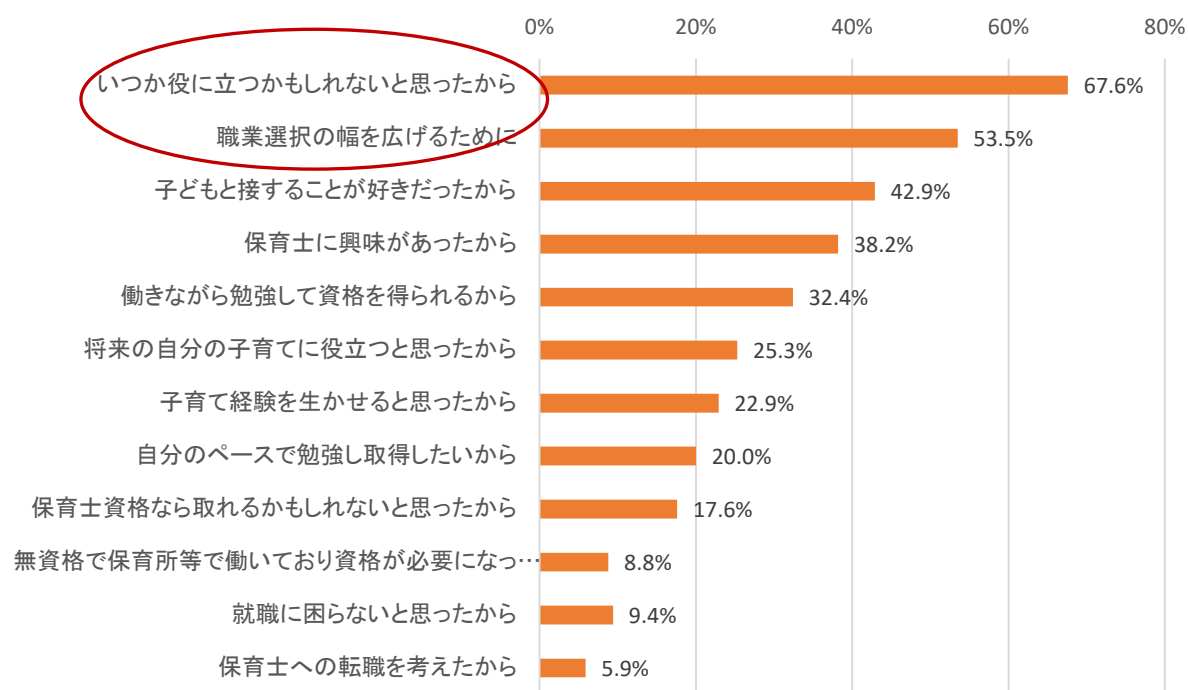


# 受験した動機 保育士として就業する意思による比較

意思あり (n=898)

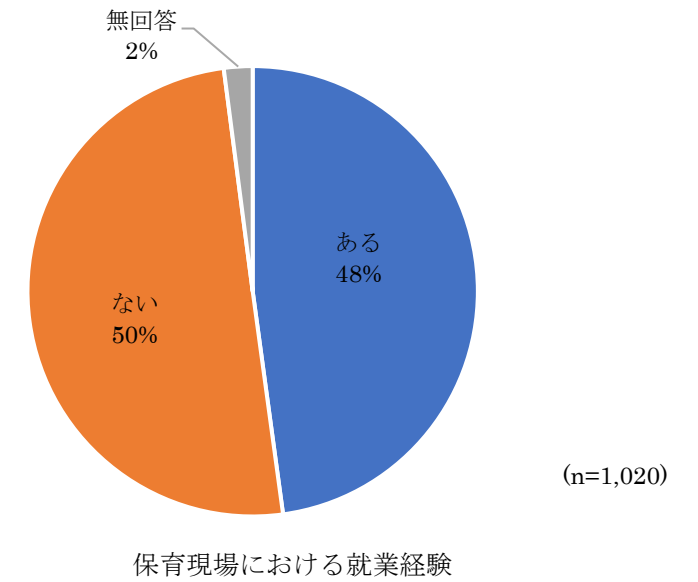
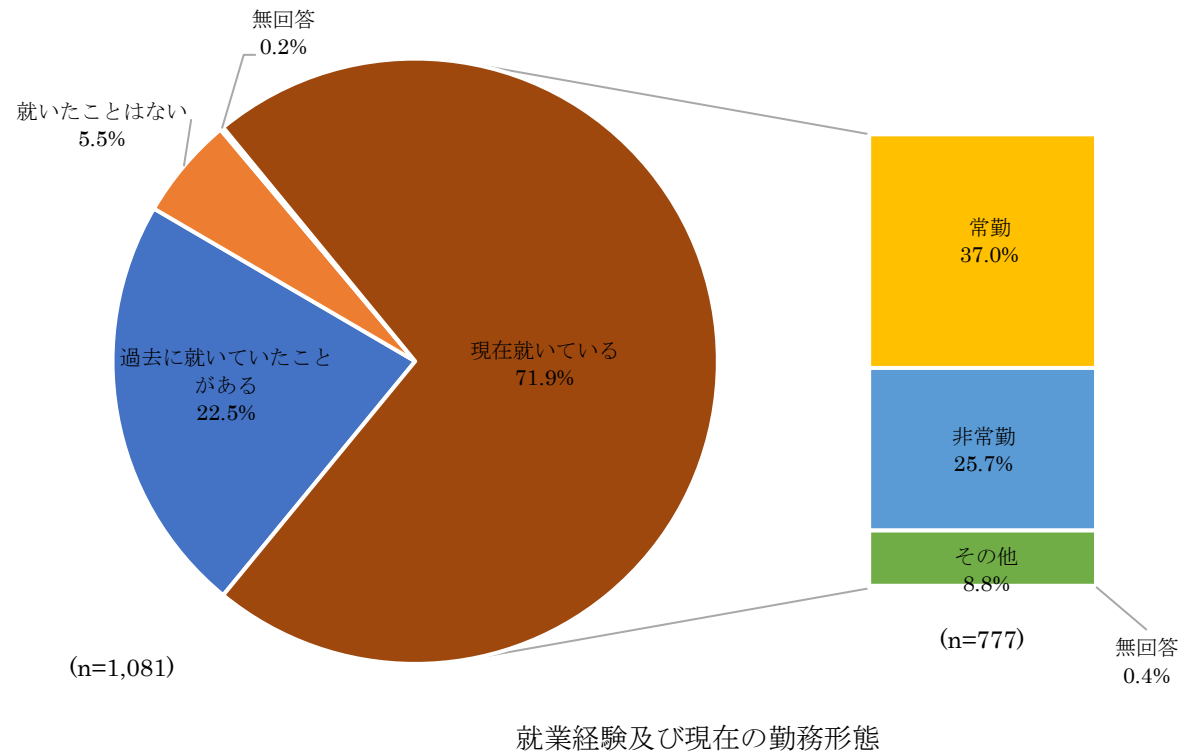


意思なし (n=170)



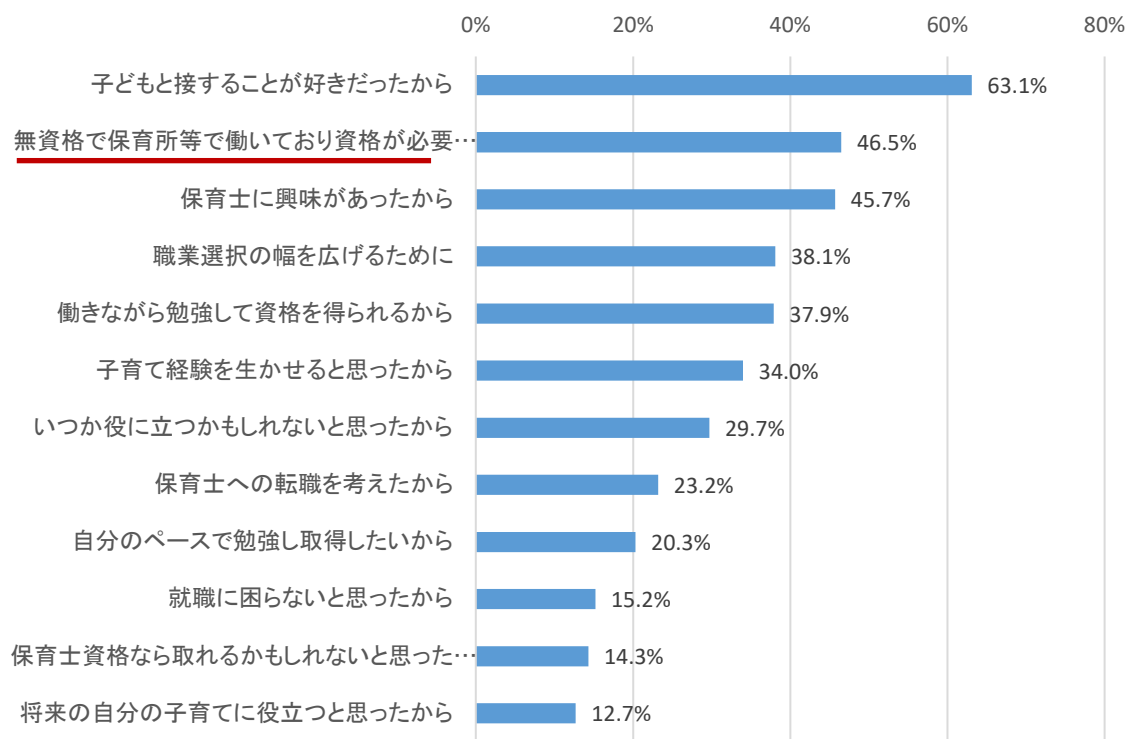
\* 複数回答可

# 就業経験

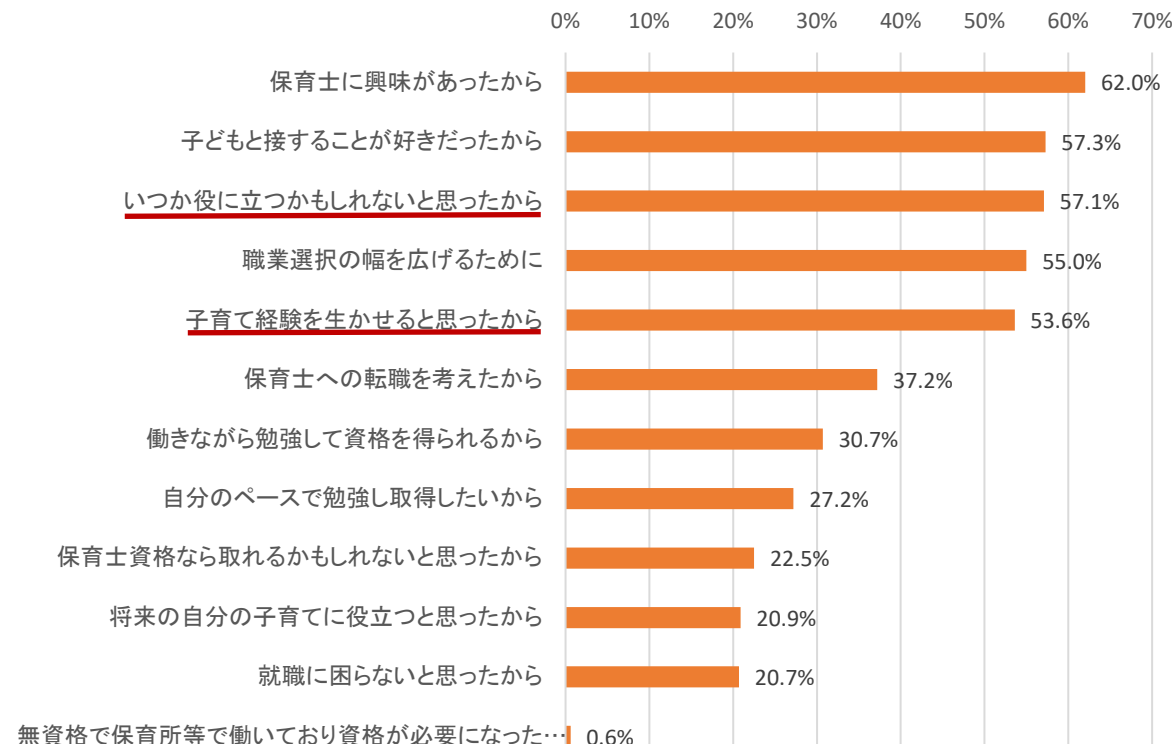


# 受験した動機 保育現場での就業経験による比較

経験あり (n=488)

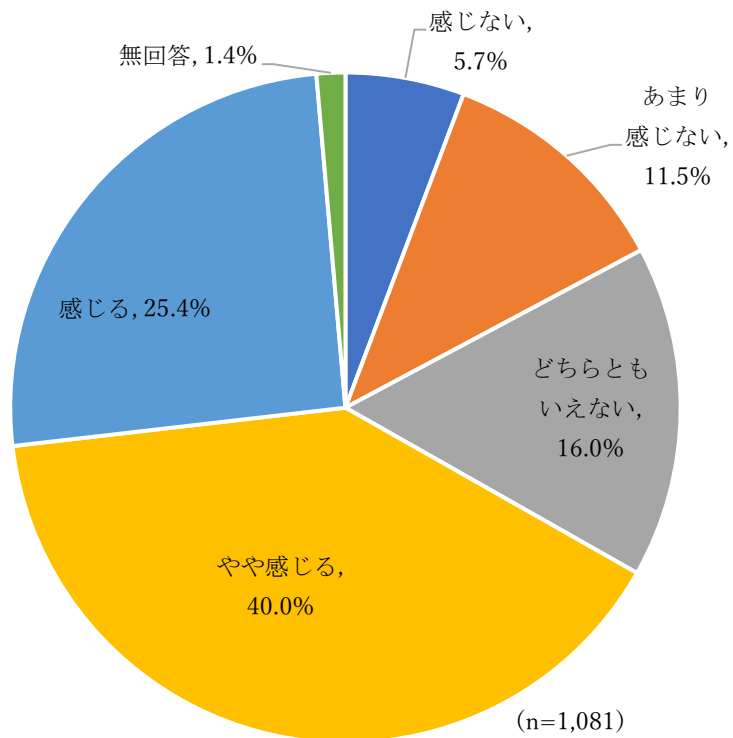


経験なし (n=511)

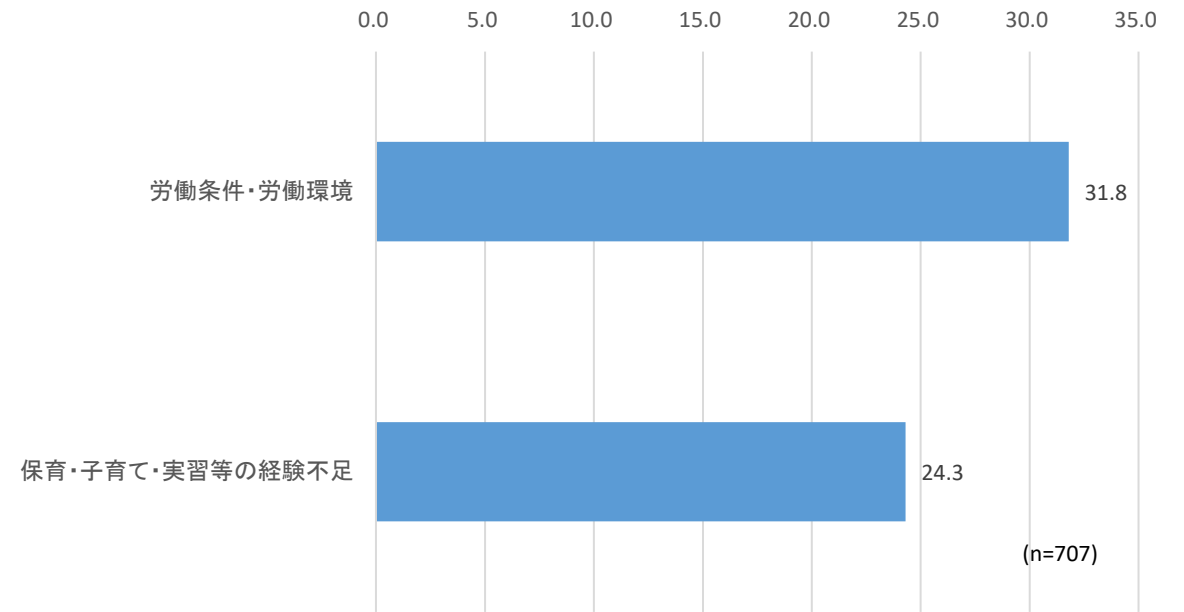


\* 複数回答可

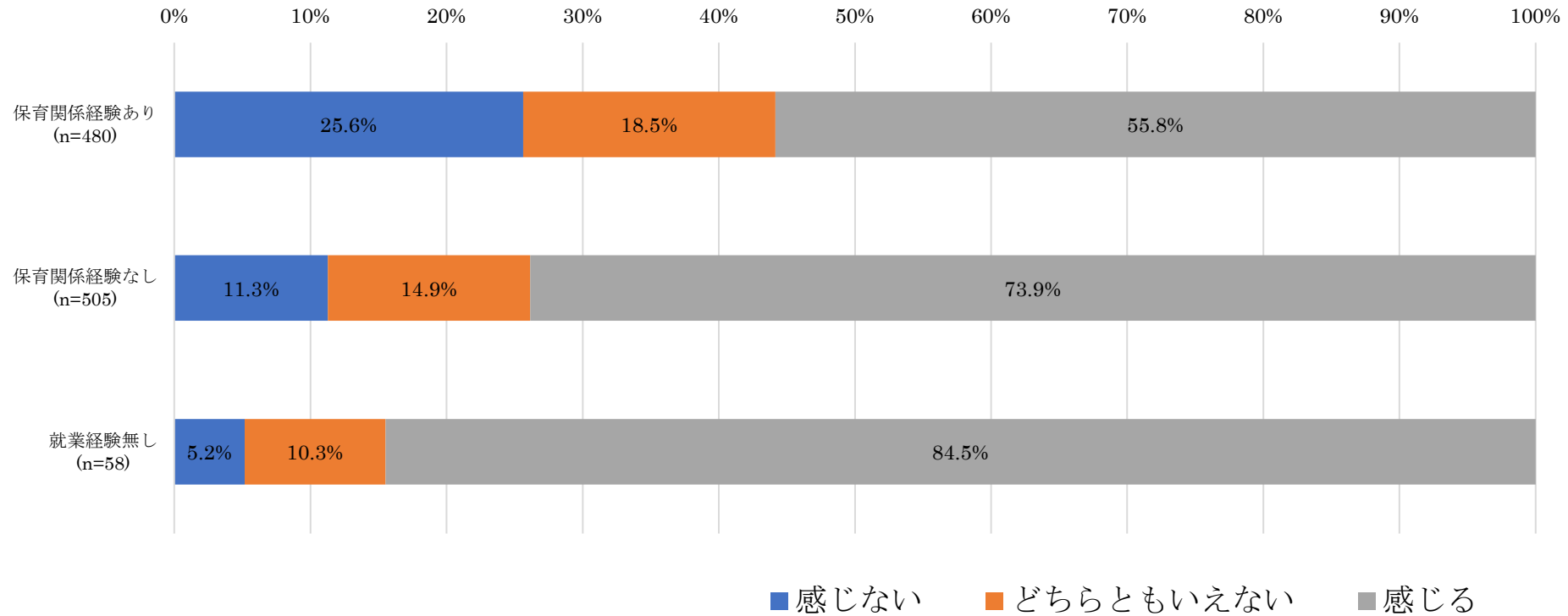
# 保育士として働くことへの不安



不安を「感じる」・「やや感じる」と回答した者の理由

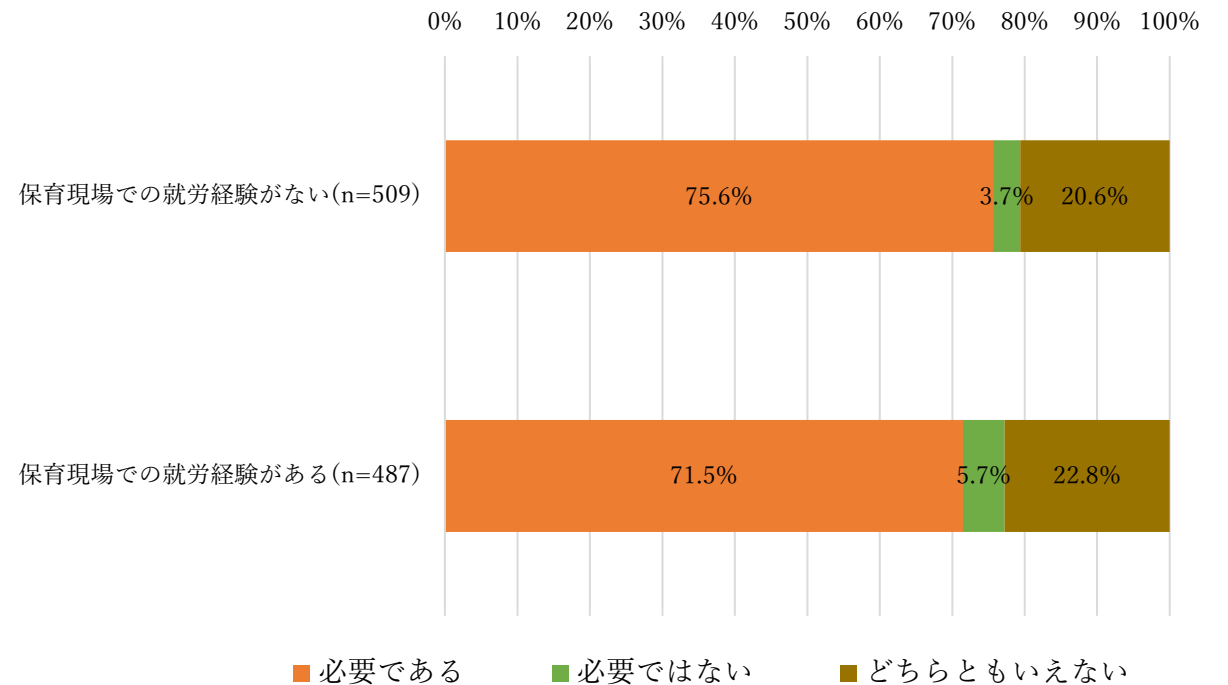
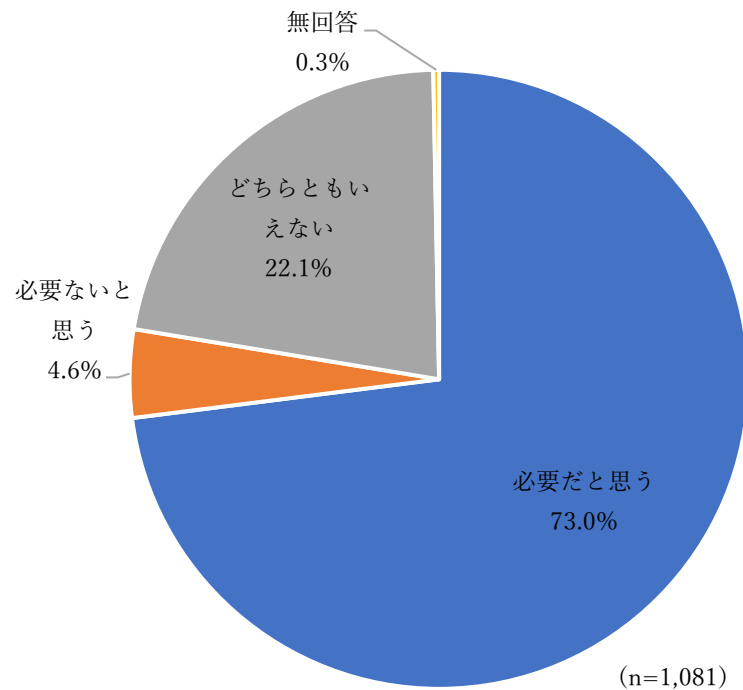


# 保育士として働くことへの不安 保育現場での就業経験による比較

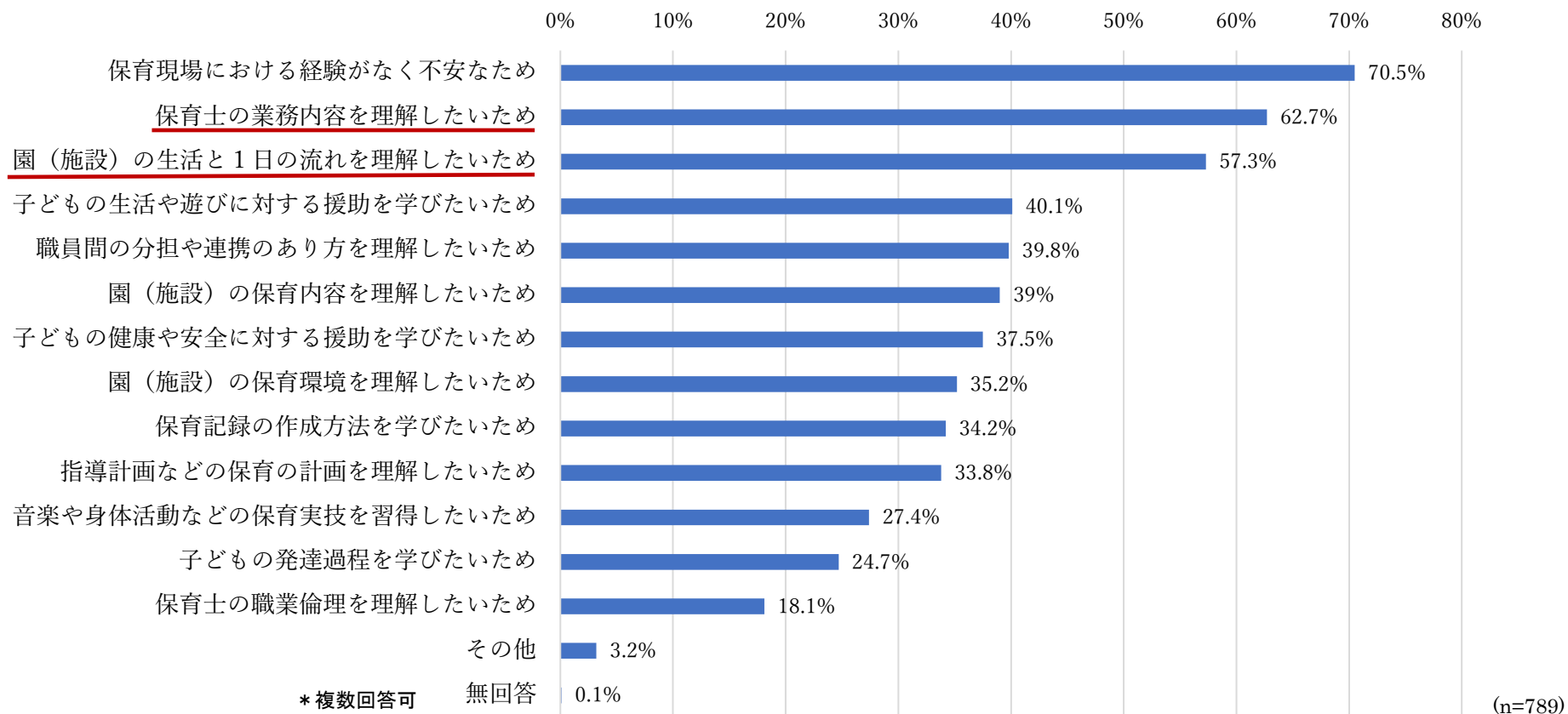




# 保育士として働くにあたって 保育現場における実習や研修の必要性



# 保育現場における実習や研修の必要性の理由



# 保育士試験合格者の実態

## まとめ

---

- 年齢：「30~40代（子育て世代）」62.2%
- 最終学歴：「4年制大学+大学院」58.5%      専攻：「子どもと関係がない」74.8%
- 就業経験：「現在就いている」71.9%+「過去に就いていた」22.5%（94.4%）⇒「保育現場で就業経験あり」48%
- 保育現場で就業意思あり：84.1%⇒希望勤務形態 「週5日」71.1%、「7~8時間」52.2%・「5時間以上」77.7%
- 受験動機・保育現場での就業経験による比較
  - ①経験あり 「無資格で働いており資格が必要になった」46.5%
  - ②経験なし 「いつか役立つかもしれない」57.1%、「子育て経験を生かせる」53.6%
- 保育士として働くことへの不安：65.4%      「保育現場経験あり」55.8%、「保育現場経験なし」73.9%
- 保育現場における実習や研修の必要性：「必要」73.0%⇒「業務内容の理解」62.7%、「1日の流れ」57.3%

# 試験保育士の保育所への就業プロセス

# 研究方法

---

## 1. 調査対象

試験で保育士資格を取得し、保育所等に保育士として就業している者を対象としたインタビュー調査を実施。調査対象は、保育所等に保育士として就業している27名（平成31年3月現在）、全員女性である。

## 2. 調査方法

調査時期：平成30年10月～平成31年1月

対象者には、個人の属性等が分かるように、インタビュー前にフェイスシートを記入してもらう。

インタビューは、質問項目を設定し、それらの質問について答えていただく構造化インタビューを、2～4名でのグループ形式で実施。

# 質問項目

---

- ・保育士資格取得を希望した理由
- ・試験で保育士資格を取得することにした理由
- ・保育現場の就業先を決める(就活)プロセス(保育士資格取得後)
- ・就業前に不安に感じていたこと(保育士資格取得後)
- ・就業前に受けた支援(保育士資格取得後)
- ・就業前に受けたかった支援(保育士資格取得後)
- ・就業後に不安に感じていたこと(保育士資格取得後)
- ・就業後に受けたかった支援(保育士資格取得後)
- ・就業を継続するために必要だと感じていること

# 試験保育士 4分類

---

インタビュー調査を分析した結果、保育士資格を取得する前の経験から、27名の対象者を4つに分類

分類①「子どもと関係ない専攻」卒業・無資格での保育所就業後に保育士資格を取得した者（11名）

分類②「子どもと関係ない専攻」卒業・保育士資格取得後に保育所に就業した者（9名）

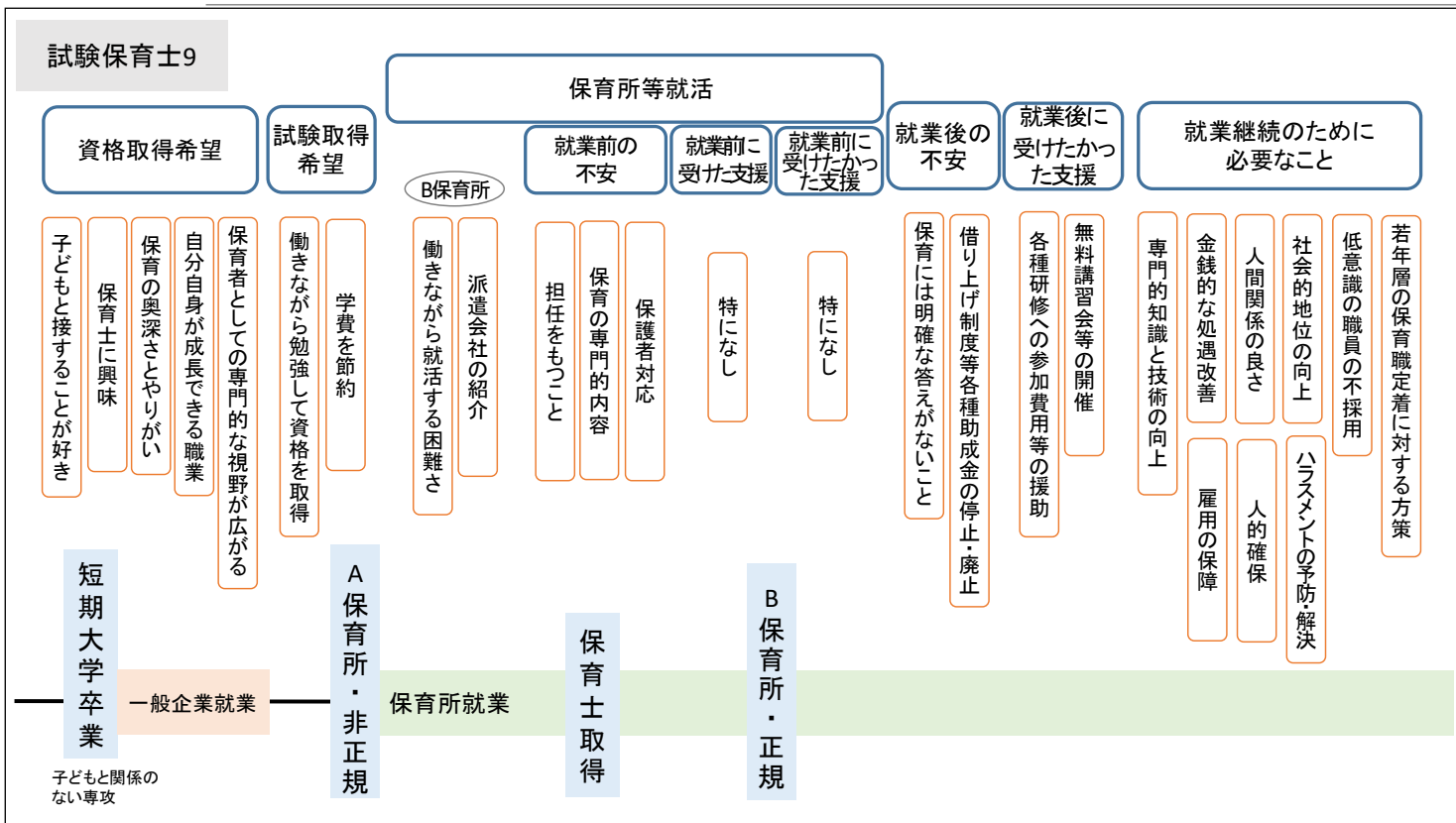
分類③「子どもと関係ある専攻」卒業・幼稚園での就業経験がある者（4名）

分類④「子どもと関係ある専攻」を在学中に保育士資格を取得した者（3名）

\*「子どもと関係のある専攻」とは、保育士養成校ではなく幼稚園教諭一種もしくは二種を取得できる専攻のことをさす

# 提示例 分類①

## 「子どもと関係ない専攻」卒業・無資格での保育所就業後に保育士資格を取得した者



B保育所には<派遣会社の紹介>で就業

**語り** 「働きながら就職活動ってすごく難しくって、自分で動いてみたんですけどなかなか見つけれなかったのので」

<働きながら就活する困難さ>を感じ、いろいろな園の求人情報を受動的に得られる派遣会社への登録を選択

**語り** 「保育園って結構1年目から担任を持つじゃないですか。それが不安で」

保育士資格取得前から保育所での就業経験があったが、資格を取得して正規職員として新しい責任を負うことを想像しそれが就業前の不安に

☆就業継続のために必要なこと  
 <専門的知識と技術の向上>・<金銭的な処遇改善>  
 <社会的地位の向上>

就業後に不安を感じていたことが関連



# 試験保育士

## 資格取得希望理由

分類①「子どもと関係ない専攻」卒業・無資格での保育所就業後に保育士資格を取得した者

<子どもと接することが好き>  保育士の仕事にやりがいを感じた  
資格保持者との<格差を感じた> (仕事内容・金銭面)

分類②「子どもと関係ない専攻」卒業・保育士資格取得後に保育所に就業した者

<子育て経験を生かせる> ⇐ 子育ての中で子どもと関わる楽しさを感じた  
<保育士資格なら取れるかもしれない> <いつか役立つかもしれない> ⇐ 挑戦しやすく、就業に直結しやすい

分類③「子どもと関係ある専攻」卒業・幼稚園での就業経験がある者

<子どもと接することが好き>  今後も子どもと関わる仕事がしたい ⇒ <保育士への転職を考えた>

分類④「子どもと関係ある専攻」を在学中に保育士資格を取得した者

<子どもと接することが好き> <職業選択の幅を広げる> ⇐ 幼稚園での実習等で子どもと関わる楽しさを感じ

# 試験保育士

## 試験で取得した理由

---

3 分類共通（分類④在学中に取得以外）

<働きながら資格を取得> したいために <自分のペースで勉強しながら資格を取得> することができる試験を選択

分類①「子どもと関係ない専攻」卒業・無資格での保育所就業後に保育士資格を取得した者

分類②「子どもと関係ない専攻」卒業・保育士資格取得後に保育所に就業した者

<子育てしながら資格を取得> <家庭と両立したい> ため <自分のペースで勉強しながら資格を取得> を選択

分類③「子どもと関係ある専攻」卒業・幼稚園での就業経験がある者

試験科目の中に <免除科目> があったため

分類④「子どもと関係ある専攻」を在学中に保育士資格を取得した者

<在学中に取得したい> <在学中の学校の方針> <大学の学習の延長線>

# 試験保育士 就職活動の実態

---

分類①「子どもと関係ない専攻」卒業・無資格での保育所就業後に保育士資格を取得した者

＜派遣会社の紹介＞ ＜知人の紹介＞ ＜取得後も就業継続＞ (11人中4人)

分類②「子どもと関係ない専攻」卒業・保育士資格取得後に保育所に就業した者

＜知人の紹介＞ ＜誘われた施設に＞

分類③「子どもと関係ある専攻」卒業・幼稚園での就業経験がある者

＜知人の紹介＞ ＜誘われた施設に＞

分類④「子どもと関係ある専攻」を在学中に保育士資格を取得した者⇒公立保育所に就職 (3人中2人)

＜知人の保育士から情報収集＞ ＜大学に求人があった園に見学＞

⇒就職セミナーやハローワーク等に自ら足を運び、情報を収集したり、園探しをしている人は少ない

# 試験保育士 就業前の不安と受けたかった支援

---

分類①「子どもと関係ない専攻」卒業・無資格での保育所就業後に保育士資格を取得した者

＜正規職員としての責任＞：7人（11人中）が資格取得を契機に正規職員に

＜担任をもつこと＞ ＜書類関係＞ ＜事務仕事の量＞ ＜保護者対応＞ ＜ピアノ実技経験の少なさ＞

⇒正規として働くうえでの＜保育体験の機会＞ クラス運営のあり方・保育計画の立て方・保護者対応等

分類②「子どもと関係ない専攻」卒業・保育士資格取得後に保育所に就業した者

＜実際の仕事内容＞ ＜専門的知識の不足＞ ＜保育技術のなさ＞ ＜経験不足＞

⇒非正規での就業から始めることが不安の軽減に

⇒保育や保育士の仕事の実際を知るための＜保育体験の機会＞

# 試験保育士 就業後の不安

---

分類①「子どもと関係ない専攻」卒業・無資格での保育所就業後に保育士資格を取得した者

＜キャリアのある保育士がいない＞ ＜相談できる余裕がない＞

分類②「子どもと関係ない専攻」卒業・保育士資格取得後に保育所に就業した者

＜経験不足＞ ＜子育てと集団保育のギャップ＞ ⇒ ＜責任の重大さ＞ を痛感

分類③「子どもと関係ある専攻」卒業・幼稚園での就業経験がある者

幼稚園との違い、園独自の保育方法に戸惑い

分類④「子どもと関係ある専攻」を在学中に保育士資格を取得した者

＜相談できる余裕がない＞ ＜教えてもらう機会がない＞

⇒ ＜適切な保育方法＞ が分からない

# 試験保育士 就業後に受けたかった支援

---

<園独自の実践知を知る機会> <相談できる環境> <経験談を聞く機会>

<園外の人に相談できる機会> <他園の保育士との交流>

<各種研修等の情報・機会>

# 養成校保育士の保育所への就業プロセス

# 研究方法

---

## 1. 調査対象

保育士養成校で保育士資格を取得し、保育所等に保育士として就業している者を対象としたインタビュー調査を実施。調査対象は、保育所等に保育士として就業している14名（平成31年3月現在）内5名は男性。

保育士資格を取得した学校：4年制大学 8名、短期大学 3名、専門学校 3名。

## 2. 調査方法

調査時期：平成30年12月～平成31年1月

対象者には、個人の属性等が分かるように、インタビュー前にフェイスシートを記入してもらう。

インタビューは、質問項目を設定し、それらの質問について答えていただく構造化インタビューを、2～4名でのグループ形式で実施。



# 質問項目

---

- ・保育士資格取得を希望した理由
- ・保育士養成校で保育士資格を取得することにした理由
- ・保育現場の就業先を決める(就活)プロセス
- ・就業前に不安に感じていたこと
- ・就業前に受けた支援
- ・就業前に受けたかった支援
- ・就業後に不安に感じていたこと
- ・就業後に受けたかった支援
- ・就業を継続するために必要だと感じていること

# 養成校保育士 3分類

---

インタビュー調査を分析した結果、保育士養成校卒業後の経験から、14名の対象者を3つに分類

分類①保育士養成校卒業後に同一保育所に勤務（5名）

分類②保育士養成校卒業後に幼稚園勤務経験あり（2名）

分類③保育士養成校卒業後に複数の保育所にて就業（7名）

# 養成校保育士 資格取得希望理由

---

分類①保育士養成校卒業後に同一保育所に勤務（5名）

＜子どもと接することが好き＞ ＜保育士に興味＞ （4名）

＜隣接職種の就職に有利＞ （1名）

分類②保育士養成校卒業後に幼稚園勤務経験あり（2名）

＜子どもと接することが好き＞ ＜隣接職種の就職に有利＞

分類③保育士養成校卒業後に複数の保育所にて就業（7名）

＜子どもと接することが好き＞ ＜保育士に興味＞ （4名）

＜保育士を目指して大学に入学していない＞ ＜保育士資格なら取れるかもしれない＞

＜隣接職種の就職に有利＞

# 養成校保育士

## 養成校での取得希望理由

---

### 3分類共通

<卒業と同時に資格がもらえる>

<幼稚園免許と保育士資格が同時に取得できる>

<試験で取得できることを知らない>

# 養成校保育士 就職活動の実態

---

分類①保育士養成校卒業後に同一保育所に勤務

＜就職説明会・相談会＞ ＜実習園やアルバイト園に就職＞ ＜就職課や教員に相談＞

分類②保育士養成校卒業後に幼稚園勤務経験あり

＜HPで求人検索＞

分類③保育士養成校卒業後に複数の保育所にて就業

＜就職説明会・相談会＞ ＜就職課や教員に相談＞

【2度目以降の就職活動において】

＜求人サイトで情報収集＞ ＜HPで求人検索＞ ＜ハローワーク＞ ＜派遣会社の紹介＞

＜保育理念に共感＞ ＜保育観の合う園に＞

# 養成校保育士 就業後に受けたかった支援

---

## 【3分類共通】

＜各種研修等の情報・機会＞ 現在の保育を学ぶ機会・学びなおしの機会・保育技術の向上の機会

＜園内研修等の機会＞

## 【その他】

＜養成校で相談できる機会＞

＜他園の保育士との交流＞

試験・養成校保育士 就業継続ために必要だと思うこと

## 職場環境の整備

---

<金銭的な処遇改善>・<長期的に続く家賃補助>：賃金に関すること

<働きやすい>の環境：<休暇のとりやすさ> <実労働時間の見直し> <家庭との両立>  
<事務仕事の効率化> <業務範囲の明確化>  
<保育士配置の整備>

\* 人手不足の中で、保育士配置に余裕がなく、それが事務仕事も含め一人の保育士への業務過多となり、  
残業や持ち帰り仕事、休暇のとりにくさにもつながっている

試験・養成校保育士 就業継続ために必要だと思うこと

## 組織の中での関係性への支援

---

<人間関係の良さ> をあげている人が多数



<信頼できる同僚>・<上司の協力> があることが <相談できる環境> に

<年齢層のバランスが取れた職員構成> : 経験年数が浅い職員だけでは相談できる環境になりにくい



良い人間関係があることで <保育観の共有> や <職員間の連携> に

状況に応じて <上司のリーダーシップ> や <中間管理職の役割> の必要性

➡ これらの要素が組み合わさって <園全体の保育の質の向上> に  
意識の低い職員が招く職務怠慢と保育の質の低下も指摘



試験・養成校保育士 就業継続ために必要だと思うこと

## 制度の充実

---

＜保育士配置の基準の見直し＞

保育士の＜社会的地位の向上＞のための＜保育士資格の厳格化＞

＜試験保育士の実習制度＞：試験で保育士資格を取得する場合にも実習を行う必要性

＜若年層の保育職定着に対する方策＞

＜外部の相談機関＞

自治体等からの＜園全体に対する支援＞

# 自治体における保育士確保施策の現状

# 研究方法

---

## 1.自治体ホームページ（HP）の閲覧調査

待機児童数が、200人以上(平成29年4月時点)の市区町村33カ所に、同年10月時点で300人以上の市区町村8カ所、さらに保育所等施設の利用定員数が2年連続（平成29・30年4月時点）で1位の自治体、それら市区町村の自治体と関連する都道府県の14カ所を加えた計57カ所。

HPは平成30年8月～9月の期間に閲覧することができたもの。

## 2.自治体へのインタビュー調査

HP閲覧調査の対象となった57カ所の自治体のうち都道府県14カ所を除いた34カ所の自治体から、東京都に属する自治体1カ所、指定都市に属する自治体1カ所、関西圏に属する自治体1カ所を選択し、3つの地域の自治体を対象に実施。調査の時期は平成30年11月～平成31年1月。

# 「保育士確保プラン」からみる現状

「保育士確保プラン」における保育士確保施策の基本となる4本の柱

3本の柱（IV働く職場の環境改善以外）に焦点をあて検討

## I 人材育成

- 保育士資格を取得しやすくするための取組の実施
  - ・幼稚園教諭免許状を有する者の保育士資格取得特例制度の活用
  - ・雇用保険の被保険者に対する厚生労働大臣が指定する指定保育士養成施設の受講費支援
  - ・保育士修学資金貸付
- 保育士の魅力を伝え、保育士を目指す機運を醸成
  - ・保育士資格を有しない未就業者の就業支援(就労訓練事業、公共職業訓練)
- 資格としての保育士の専門性の向上
  - ・学生への実践的実習促進や研修による現役保育士の育成強化

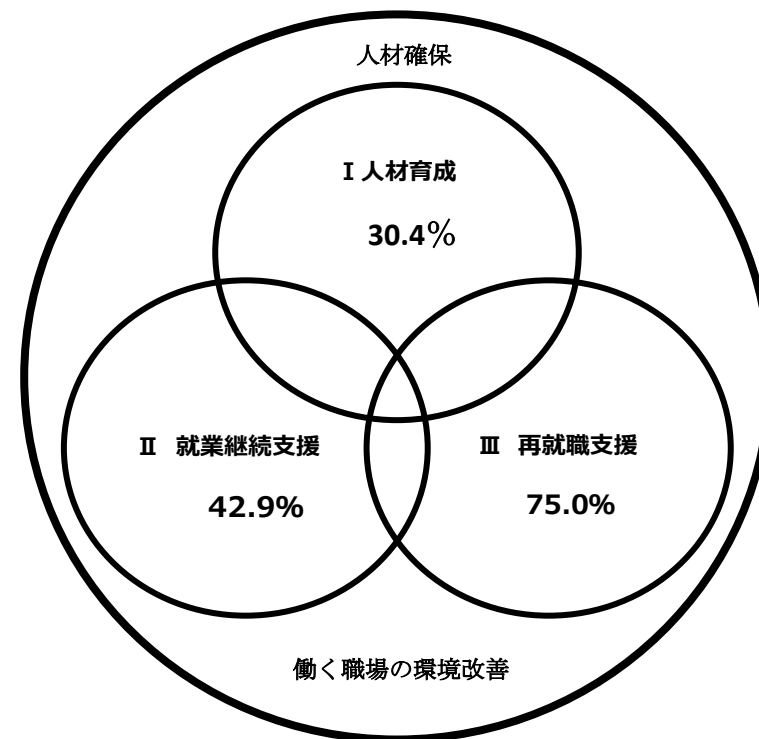
## II 就業継続支援

- 離職防止のための研修支援
  - ・新人保育士対象研修
  - ・保育の質の確保のための研修
  - ・研修参加に伴う代替職員の確保
  - ・離職防止のための研修等に係る助成の活用促進
- 就業継続を図るための各種助成金の活用促進
  - ・労働環境整備を通じた職場定着のための助成金の積極的周知
  - ・就業継続支援のための助成金の積極的周知

## III 再就職支援

- 保育士・保育所支援センターの積極的な活用
  - ・潜在保育士等に対する就職斡旋や相談支援の実施
  - ・再就職前の実技研修等
- 保育士マッチング強化プロジェクト
  - ・ハローワークにおける保育士求人に対する求人充足サービスの強化
  - ・ハローワークと都道府県等との連携による就職支援
  - ・「保育士職場体験講習会」(仮称)等の実施

## HPから閲覧できる施策 自治体の割合



# I .人材育成

## 保育士養成校との連携

---

- 自治体①
  - 相談会案内、ポータルサイト案内、各種助成・支援事業案内の広報媒体を送付
  - 意見交換会や公開保育：施設と保育士養成校との結びつきを強化したい
  - 施設見学・保育体験
- 自治体②
  - リーフレットの配布
  - 養成校へのガイダンス・意見交換会
  - 若手保育士の動画作成・配信：保育士としてやりがい、充実した暮らしを送る姿の発信
  - 施設見学会、バスツアー、保育体験等：1年次から参加可能
- 自治体③
  - パンフレット（市と私立協会で作成）の配布
  - 養成校学生も対象とした就職フェアの設置

今後に向けて

養成校保育士のインタビューを通して

# 養成校教育の質向上の必要性

---

養成校保育士A：保育士の社会的地位の向上には養成校教育の改善が必要

「本当にびっくりしましたもん。勉強しなくても普通に取れちゃうんだと思って、金だけ払えば。だから、養成校自体も、もっとちゃんとしなきゃいけないだろうし。（中略）やっぱりこのプロセスが、あまりにもちょっと簡単すぎる。それは地位が低く見られても、しょうがないと思う感じがするんで。もうちょっと国家資格らしくなれば、比例して給料も上がっていくんじゃないかと思うんで」

養成校保育士B：保育士就業に対する思いが漠然としたものならば、就業の継続は難しい

「ただ何となく、保育士になろうという人が多いのも事実なんです。だから、子どもに対して本気じゃない人が、保育士になるという現実がやっぱりあって。そうしたら、やっぱり続かないです」

◆養成校における修学の中で

- ・多様な学びの機会に：知識や技術を直に子どもとかかわりながら実践する場を経験すること、保育士になるものとしての人間性を育てていくこと
- ・卒後の保育者としての育ちを支える：教員とのかかわりや、学生同士学び合いながら育った関係性を活かす

# 保育士養成校の役割

---

- 学生は目指したい保育を養成校時代に模索できているのだろうか  
⇒ 保育観、保育理念、保育方法から就職先の園を選んでいるのか
- 卒業生（既卒者）に向けて、相談、再就職支援、研修等の実施
- 就職へのプロセスにおいても、養成校が自治体や保育所等と積極的に連携を試みる



# 中央情勢報告

- 1 保育士養成研究所の体制について
  - 2 保育士養成の諸課題と研究所の事業内容
  - 3 研究所の研究及び研究助成等について
  - 4 研究所が行う研修について
  - 5 研究所による情報提供等について
- おわりに

全国保育士養成協議会常務理事・岡崎女子大学

矢藤 誠慈郎

# 1 保育士養成研究所の体制について

- 所長（本会会長）
- 副所長（研究主担当、研修主担当、情報主担当、評価・認定等）
- 常務理事（保育士養成等専門業務担当）
- 研究員
  
- 保育士養成専門委員会…保育士養成に関する研究事業、研修事業、情報、認定・評価等の業務のあり方について協議、小委員会設置も
- 保育士養成審議委員会…所長の諮問等を受け、研究所の業務について審議し、提言

## 2 保育士養成の諸課題と研究所の事業内容

- 保育士養成倫理綱領の策定： 小委員会を設置して検討中  
19年度に案の公表と意見募集を行い、専門委、理事会等の検討を経て制定する  
学生のみならず、その向こうにいる子どもを養成校のクライアントと位置づける方向
- 階層別保育士資格取得システムの検討と提言：  
各校種の良さを生かしつつ資格の階層化を図る  
幼免上進制推進を踏まえて
- 実習指導担当教員に対する講習の検討と実施：  
19年度の研修会を踏まえつつ実施に向けて検討する
- 実習施設の本会会員加入： 保育・福祉現場との協働の推進のため  
具体的な手続等について検討していく

### 3 研究所の研究及び研究助成等について

- ブロック研究助成  
保育士の質の向上及び児童福祉の向上に寄与する保育士養成に関する研究  
各ブロックを通して申請、各ブロック30万円
  - 学術研究助成  
特に重視される保育士養成に関する研究事業（以下が本年度の課題）の促進を図る  
本会が定める研究課題一覧から選択して応募、1件につき200万円以内、総額400万円以内
    - ① 実習指導体制の実態に関する研究
    - ② 実習における危機対応等に関する研究
    - ③ 養成校による現職研修への取り組みの実態に関する研究
    - ④ 4年制養成校のカリキュラムの効果に関する研究
- ⇒積極的に、かつ研究費の適正使用を含む研究倫理を踏まえた適切な申請を（科研費を参照）
- 厚生労働省 子ども・子育て支援推進調査研究事業の実施  
調査研究事業名：「指定保育士養成施設卒業者の内定先等に関する調査研究」

## 4 研究所が行う研修について

- 保育士養成研究所研修会（年3回）  
7/7(東京) 11/10(大阪) 2/23(東京)  
今年度は保育実習をテーマに
- 課題…養成校における実習指導者の講習（厚労省「保育実習実施基準」参照）

## 5 研究所による情報提供等について

- 保育士養成研究所報告書
  - 指定保育士養成施設実態調査の報告
  - 学術研究助成・ブロック研究助成の成果(概要)報告
  - 研修会報告 等
- 指定保育士養成施設実態調査(ルーティン調査)
  - 自律的な専門組織として、子どもの最善の利益のために養成教育の質の維持・向上を図る
  - 取り組みのモデルとなる好事例の交換
  - 課題改善の促進

## おわりに

- 保育士不足から、質を下げてでも有資格者を増やすべきという議論も
- 一方でそのことが保育士という職業の地位と魅力を低下させる恐れ
- 個々の養成校の問題を超えた、業界全体の問題
- 養成の質の向上に真剣に取り組むべき局面
- 養成校全体の連携・協働が求められる
- 養成校と保育・福祉現場との対話と協働が求められる